

令和4年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	公明党
事 業 名	0歳児おむつ無償化事業・子どもインフルエンザ予防接種費用無償化事業
事 業 区 分	① 研究研修 <input checked="" type="checkbox"/> ② 調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

「子育てするなら上田市」を標榜する中、先進的に無償化事業に取り組んでいる飯能市の子育て事業を視察し、その仕組みづくりと各課の連携のあり方を学び、当市に活かしたいので。

2 実施概要

実施日時	視察先	埼玉県飯能市
令和4年10月21日	担当部局	健康推進部 子育て支援課・健康づくり支援課

報告内容・感想（まとめ）・市政に活かせること

1 0歳児おむつ無償化事業について

平成29年7月からスタートした事業の特長は、①0歳児の間に3回に分けてクーポン券を交付、経済的な負担を軽減する。②親子と直接面談をする機会を増やすことで、子どもの発育発達や保護者の育児の悩みなどに早期に対応し、きめ細かい支援に繋げていく。ことである。

子ども一人に対し、額面1千円のクーポン券を、出生届の手続き時（18,000円分）、4ヶ月乳児健診時（16,000円分）、8ヶ月児クーポン券交付（16,000円分）の3回に分けて支給する。

対象の育児用品は、紙おむつ、布おむつ、おむつカバー、おしり拭き、粉ミルク、液体ミルクの6品目に限定し、年額5万円の算定基礎もしっかりしている。

予算規模は、（令和4年度予算）約2400万で、財源は、県の多子世帯応援クーポン事業費補助金（約200万）と一般財源である。

アンケートによる利用者の声は、すごく助かる、ありがたい！との声が多く、子育て世代の転入者の数も多く平成27年からは、転入による人口増加が顕著なことも納得できる。

子育て世帯への経済的支援だけでなく、健康づくり支援課と連携して、交付時に子育て相談につながる重要な機会となっており、きめ細かい支援ができていることに大変感動した。

今後、国の0歳から2歳児までのクーポン券支給の施策の動向を見ながら、上田市版のより細やかな子育て支援につながるよう提案したい。

2 子どもインフルエンザ予防接種無償化事業について

子育て世帯の経済的負担軽減と子どもの健康の保持増進を目的に、生後6ヶ月から中学3年生まで（約9000人）に、全額無償の助成をしている。

近隣市などは、一部助成か対象年齢を限っているなかで、全て一般財源で全額無償と対象年齢も義務教育までとしている事は素晴らしい。

“子どもと若者の明るい夢と未来を育む”という市長の方針の中に、この予防接種無償化事業が、しっかりと入っている事でも、市全体で、子育て支援を最重要課題に掲げているという意気込みが感じられた。上田市においても全額でなくとも一部助成するか、対象年齢を限るなどして支援することはできないか提案したい。

3 全体を通して

平成26年5月に、日本創生会議・人口問題検討分科会の試算により「消滅可能都市」の一つに挙げられたことが背景にあり、シンボルプロジェクトの一つ「子ども、若者の夢・未来創造プロジェクト」の中で、様々な子育て支援に取り組んでいる。飯能市には、“ムーミン”で有名な北欧童話作家のトーベ・ヤンソンとの手紙のやりとりから生まれた「トーベ・ヤンソンあけぼのこどもの森公園」があるが、この公園の所管課が子育て支援課というのには驚いた。庁内が連携して未来の宝の子どもたちを応援している姿には学ぶ事がたくさんあった。

* 視察先の写真等がある場合は添付のこと